

第45回日本循環制御医学会総会・学術集会に参加して

大阪医科薬科大学薬物治療学Ⅰ研究室

西田菜月、川合咲希

2024年6月28日、29日の2日間、第45回日本循環制御医学会総会・学術集会が徳島市のあわぎんホールで開催された（図1）。本学術総会では徳島大学大学院の田中克哉先生が会長をされ、シンポジウムと演題発表が同時並行により進行していた。また、プログラムにおいては、3つのテーマにより行われたシンポジウム、41の一般演題や教育講演、特別公演、シンポジウムなどが行われた。テーマを「原点回帰」とし、非常に幅広く興味深い内容について知ることのできた学術総会であった。



図1 学会会場：あわぎんホール

・日本循環制御医学会について

1980年に徳島大学の教授である齊藤隆雄先生が創設した学会であり、麻酔科、循環器内科、心臓血管外科の先生方および循環に関する基礎研究を行っている先生方が「循環」という共通テーマをもとに行う診療科横断型の学会である。

・学会発表終えての感想

〈西田〉

本学会で、「心筋細胞におけるアルドステロン局所産生機構とエサキセレノンの作用」について発表させていただきました。発表当日は緊張しましたが、質疑応答を通して知識を深めることができました。貴重な経験を研究室で共有し、これからの研究に生かしていきたいです。

〈川合〉

今回の学会において、「ヒト肺動脈内皮細胞におけるエサキセレノンの抗リモデリング作用」に関して発表を行いました。初めての学会での発表であり緊張しましたが、無事に発表を終えることができました。また、質疑応答の際にいただいた質問は、卒論作成に生かしていくことができる内容であり、収穫の多い発表となりました。

発表終了後は大塚国際美術館にも訪れることができ、限られた時間の中で有意義な時間を過ごすことができました。



図2 口頭発表を行った著者（左：川合咲希、右：西田菜月）